

「あわせて100歳ヒアリング事業」について

1. 事業の概要

戦前の環境負荷の少ない暮らしを経験している現在90歳前後の高齢者を対象としてヒアリングを実施し、暮らしの知恵や技術、伝承されている地域らしさなどを再認識・再発見する。

ヒアリングの成果については、自然との共生や循環型社会の構築、持続可能なライフスタイルの創造など、行政施策に反映させるとともに、各地域のまちづくりに繋げていく。

2. 事業の内容

○環境負荷の少ない戦前の時代を一定の年齢で経験している高齢者の方々に当時の暮らしの知恵や技術等についてのヒアリングを行う。

○ヒアリングは、若手職員による市内プロジェクトチームを立ち上げ、勉強会等により一定のヒアリング技術を習得したのち実施する。

○ヒアリングは、小学生の参加を得ながら行う。
(ヒアリングの対象となる高齢者とヒアリングに同席する小学生の年齢を合計して、およそ100歳となることから「あわせて100歳ヒアリング事業」とする。)

○ヒアリングの内容は、議事録や映像をライブラリ化し、関係者が情報を共有できる体制を整える。

○ヒアリングの情報を分析し、90歳前後の高齢者の知恵や技術等を再認識・再発見するとともに、持続可能なライフスタイルについて具体的な施策を検討する。

○本事業については、東京都市大学環境学部 教授 古川柳蔵氏及び株式会社 日立製作所名誉顧問 福山裕幸氏の監修のもと実施する。



3. 想定される主な6つの成果

○自然と共生していくための暮らしの知恵や感性の掘り起こし

- ・戦前の環境負荷が低い時代は、意識しなくても自然と共生するライフスタイルが確立されていた。ヒアリングを通して、当時の暮らしの知恵や技術等を再認識・再発見し、自然との共生や循環型社会の構築等につながる施策に反映していく。

○地域らしさの再発見

- ・戦前において、日常生活の一部となっていた行事や慣習には、その地域固有の歴史として伝承されてきたものが多く、地域のアイデンティティそのものである。地域会議やまちづくり実働組織において、そうした情報を地域のまちづくりを検討する際のヒントとして共有する。

○子育ての知恵や戦争体験などの伝承

- ・核家族化が進んできた今日では、暮らしの知恵や戦争体験などを「親から子へ、孫へ」と伝承していくことが難しい。様々な情報が簡単に得られる時代ではあるが、生の声として聞くことで理解が深まることが期待できる。

○新たなライフスタイルの創造に関わるビジネスモデルの構築

- ・環境負荷の低い時代には、「モノづくり」は日常生活の中に存在し、「モノを大切にする」価値観を共有することは容易であった。企業がモノづくりを担う今日の社会では、「モノを大切にする」という価値観を提供することも企業の役割として考えられ、ビジネス活動につながる可能性もある。

○高齢者に対する市民の敬老意識の醸成、高齢者の生きがいづくり

- ・日常生活の中では、ややもすると高齢者の話は「またか」といった感覚でとらえがちだが、そうした話の中に、持続可能なライフスタイルに影響を与えるヒントが隠されていることを知ることで、高齢者への敬老意識が醸成されるとともに、高齢者にとっては生きがいにつながると考えられる。

○多世代間の交流

- ・ヒアリングの現場に小学生が同席することで、話し手である高齢者がわかりやすく説明しようとするとともに子ども時代を思い出しやすくなるため、ヒアリングに深みが出るのが考えられる。小学生にとっては、昔の暮らしぶりを直接聞く貴重な機会となる。

4. 事業スケジュール(予定)

◇7月

- ・市内ヒアリングのためのプロジェクトチームを設置
(事務局は総合政策課が担い、20~30代職員を中心に15名程度で構成する。)
- ・ヒアリング対象者の確保
(関係団体の協力を得ながら、市内全域から、地域性、職業、男女比等に配慮して30名程度選出する。)

◇8月~11月末

- ・ヒアリングの実施

- ・プロジェクトチームは2名1班体制とし、1班が4~5名程度のヒアリングを行う。
- ・ヒアリングに参加する小学校
 - ・大平中央小、大宮南小、赤麻小、他と協議中
- ・ヒアリング内容の記録
 - ・議事録及び映像のライブラリ化を行う

◇令和2年1月以降

- ・ヒアリング結果の分析、行政施策等への反映を検討する。

◇令和2年4月以降

- ・ヒアリング結果に関する情報の共有化
- ・ヒアリングの実施(ヒアリングは令和元年・2年実施の予定)
- ・ヒアリング結果の分析、行政施策等への反映を検討する。

【問合せ】

総合政策課 政策調整係
担当：唐木田・岡
電話 0282-21-2305